

ニュースレター

★オーストラリア大陸横断鉄道の旅特集号★

小山副会長さん、おめでとう！！

本年は日豪交流年です。これを記念してオーストラリア大使館は、オーストラリア・インポート・アワード賞をわが小山副会長に授与されました。小山商店の会長として小山さんが優れたオーストラリア木材をわが国に輸入してきた業績に対してその功績が認められたものです。授賞式や記者発表会およびレセプションが2月16日(木)、名古屋マリオットアソシアホテルでマレー・マクレーン駐日オーストラリア大使の出席の下、盛大に挙行されました。山口ジェトロ三重所長三重豪NZ協会顧問、宮本協会会長夫妻がお祝いに駆けつけました。



私が最も愛し信頼と尊敬するオーストラリア国。今年は日豪交流年である。その記念年に図らずも当社がオーストラリア・インポート・アワード受賞の栄誉をうけた。受賞理由に「貴社は輸入を通じてオーストラリアと中部地区との間に新しいビジネスを創出されました。その功績をここに表彰いたします。」と記され、2月16日名古屋市マリオット・アソシアホテルでの授賞式には、オーストラリア駐日大使アリスティア・マレー・マクレーン閣下はじめ公使、領事ご列席の上、オーストラリア政府公式の受賞は感激の極みであり、レセプションに多くの関係者からお祝いを受け、私は謝辞に「心から感謝申し上げますのとオーストラリア国にこちらから御礼致すのが本意です」とご挨拶したのである。

そもそもオーストラリアとの関係は、永年にわたり四日市港がオーストラリア・シドニー港と姉妹関係にあり、羊毛、綿花など全国一の輸入の実績を持ち、今でも石炭、LPガス、その他主に鉱工産品の貿易。片や、オーストラリアへの自動車関係等の輸出を継続し、毎年両港管理関係者の交流も活発な関係をキープしている。現在四日市南港埠頭にはシドニー通りはじめ記念公園があり、片方オーストラリア、シドニー港ポタニー湾頭には、



オーストラリア大陸の発見者キャプテン・クックの上陸地点を眺める場所に日本の鳥居モニメントの記念碑が立っている。更に四日市霞緑地には大阪万博オーストラリア記念館が移設され、永久に日豪両国国際親善の絆を固め、その関係で愛知万博には多数のオーストラリアVIPが来博され、それがご縁で万博終了時、記念出展のカモノハシが当市オーストラリア記念館に贈られたのである。3月25日オープン内覧会には大使、領事がわざわざ東京から来訪され、4月1日オーストラリア館リニューアルオープンセレモニーにも再度ペニー、リチャーズ首席公使夫妻がテープカット、当日伊勢神宮と鳥羽水族館を見学された。神宮を訪ねて日

本伝統文化の象徴の神宮で温かい心からなるお接待と、水族館では館長の特別バックヤードをはじめ詳しい案内を受けた思い出は忘れられないと嬉しい喜びのお便り。いよいよグローバル時代。アクセスの利便性が進み、昔、夜行列車で東京へ行く時間で今は南半球オーストラリア・ケアンズに到着するご時勢の時代、健康さえ許せばなんと恵まれた世の中であろうと思うのである。その観点から当社では開発部門を活かし、世界で珍しい芳香、防虫、防蟻に強い材質を持つ自然の「宝物」オーストラリアサイプレスの研究を日豪両国、産、学、官で研究し、人類社会のお役に立ちたいものと決意を新たにしたのである。ご期待を乞うと共にご支援とご協力を切にお願いするのである。(2006年4月21日 株式会社 小山商店 代表取締役会長 小山良一)

第5回豪NZ訪問 2005.10.29~11.11

「2005年度豪州親善の旅」宮本由紀子

12名が10月29日から11月11日の14日間自由な交流の現地体験の旅を満喫。インディアンパシフィック号には私たち夫婦は普通寝台車両、あとの10名は豪華寝台車両に乗車。キャセイパシフィック航空は台湾経由(往きのみ)でしたが香港での乗り換えもスムーズでした。

10/28(金): 旅行リーダー増田陽一さん一足先に出航。明日香港で落ち合う。その間北出さんがリーダー代理。

10/29(土): 朝、小雨模様。協会旅行初のセントレア17時15分発(5時間45分)香港乗換え23時55分発(7時間40分)パースまで。

10/30(日): 快晴のパース: 7時35分着。空港でリーダーの皮膚用白パウダー麻薬?検査、小一時間。9時30分レンタカー2台でピナクルズ往復600km。黄色い砂漠に岩とまばらな低木の奇景、「荒野の墓標」。モーター探し苦労。

10/31(月): 快晴。海洋博物館、大小の色々なヨットの浮かぶフリーマントル港にもはや日本かつおマグロ漁船の基地はない。いわし雲、濃淡のエメラルドグリーンの水平線に夕日きらめくインド洋。サンセットコースト、リゾートアパートメントのサンドキャッスルで2泊。各フロアや部屋の独立性が高く鍵の管理厳重。互いの部屋訪問もままならず。

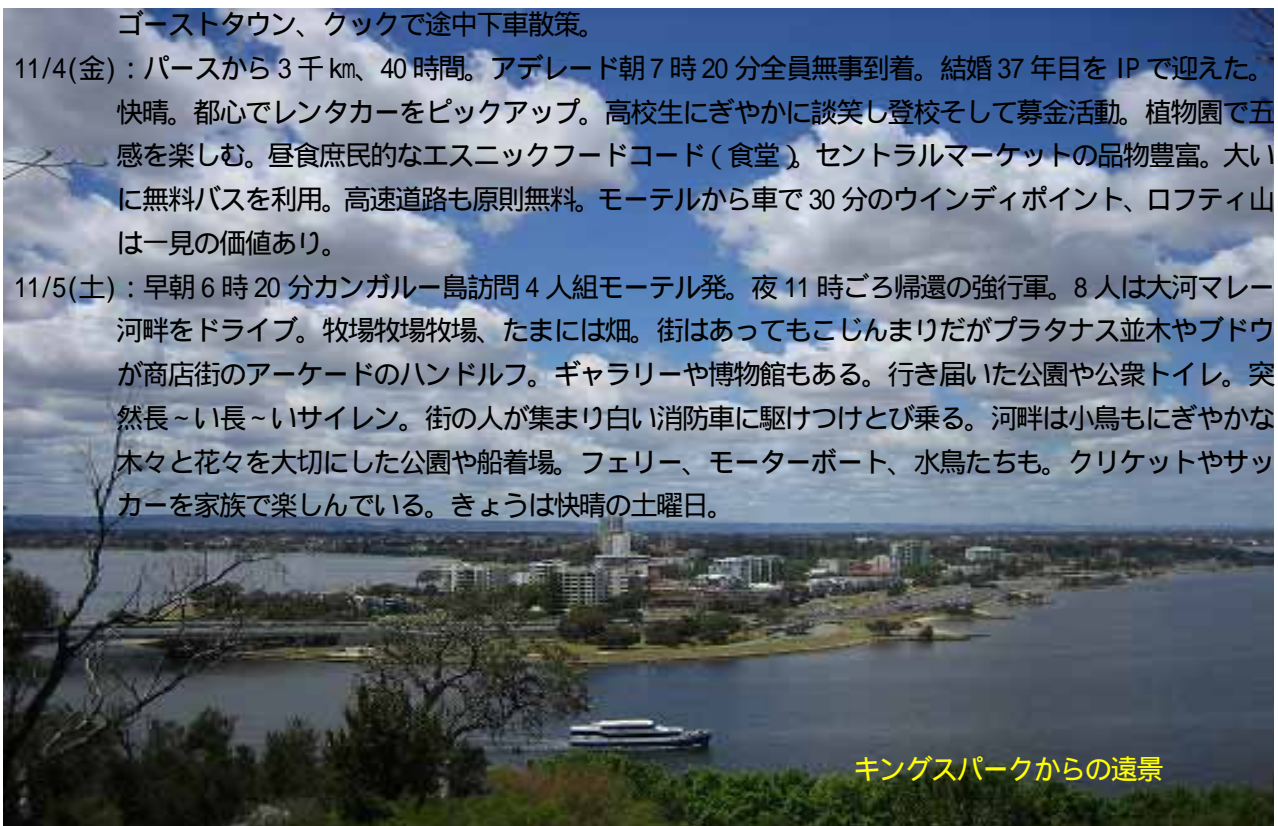
11/1(火): 快晴。パースの都心いたるところ一方通行。パーキングも20分のみ。都心に続く広大な市民森林公園キングスパーク。夕方、隣室の住人老夫婦と歓談。高級現地ワインの差し入れうれしい。

11/2(水): 快晴。パースでのRC走行950km。パース東駅。担当の車掌さんがにこやかに改札。インディアンパシフィック号11時55分パース発車。乗車記、宮本忠別稿。深夜カルガリー車掌さん豪華組みを特別ガイド。

11/3(木): ナラボー平原(英国の面積の2倍)の直線鉄路は、2,478km。次々に変化する初めてみる大自然の風景は退屈無用。西豪と南豪州には時差90分あり豪華車両では大きな時計版を使って案内があったとか。ゴーストタウン、クックで途中下車散策。

11/4(金): パースから3千km、40時間。アデレード朝7時20分全員無事到着。結婚37年目をIPで迎えた。快晴。都心でレンタカーをピックアップ。高校生にぎやかに談笑し登校そして募金活動。植物園で五感を楽しむ。昼食庶民的なエスニックフードコード(食堂)。セントラルマーケットの品物豊富。大いに無料バスを利用。高速道路も原則無料。モーターから車で30分のウインディポイント、ロフティ山は一見の価値あり。

11/5(土): 早朝6時20分カンガルー島訪問4人組モーター発。夜11時ごろ帰還の強行軍。8人は大河マレー河畔をドライブ。牧場牧場牧場、たまには畑。街はあってもこじんまりだがプラタナス並木やブドウが商店街のアーケードのハンドル。ギャラリーや博物館もある。行き届いた公園や公衆トイレ。突然長~い長~いサイレン。街の人が集まり白い消防車に駆けつけとび乗る。河畔は小鳥もにぎやかな木々と花々を大切にされた公園や船着場。フェリー、モーターボート、水鳥たちも。クリケットやサッカーを家族で楽しんでいる。きょうは快晴の土曜日。



キングスパークからの遠景

11/6(日):小雨のアデレードを午前10時前に3台で出発。山に近づき大粒の雨。雨の後にものすごいハエの大群。フロントにパチパチ当たる。カナダからのサイクリスト頭からすっぽりかぶるハエよけネット。近くの店で買ったという。水溜りは白いざらめ。ここは塩害地帯。昼食は湿地公園でハエを払いながらサンドイッチなど。15時ごろモーターに入る。夜、宮本の部屋でビール、ワインパーティー。



西オーストラリアは花の州

11/7(月):朝6時大雨。朝食は当番の部屋で昨日海岸でプレゼントとされたアワビの刺身。パンなどは近くのガソリンスタンドで買った。スーパーでパンが売り切れだったので困っていたらお客のおばさんがうちにおいでよ、パンあげると言ってくれる。12名もいるのでうれしくお断りした。見知らぬ外国人に気軽に親切に

声をかけてくれる。港の突堤の入り口に魚介類規制の立て札あり。絵で示して獲ってもいい魚などの数量、大きさ、罰則を南豪州政府が告示。資源・自然保護が厳格です。

11/8(火):小雨の海辺のリゾート・ビリーセントのモーターを9時に出発。太陽が出てきた。木材の町マウントガンビアはかなりの町。鉄道に木材を運ぶ大きな大きなトレーラー。山の階段を登って見晴台からその名もブルーレーク、火山湖を見下ろす。時間により天候により季節により場所により見る人により湖面の色が周囲の山、空に合わせて微妙に変化する。人はここで急ごしらえの画家になる。鍾乳洞の入り口のテーブルで昼食をとっていたらものすごい雷雨。パンやチーズやミルクを持って車に一目散。ビーチの町ポートフェアリーのモーターに4時到着。海辺に昆布模様。採って食べるものあり。打ち寄せる4,5mの大波の波頭に夕日キラキラ水色ビー玉の花満開。シーフードレストランで地元の画家と知り合い、似顔絵を書いてもらい大賑わい。

11/9(水):アデレードから千キロあるグレートロードの見所いっぱい海岸を途中下車を重ねつつ走破。メルボルン夕方6時半ごろセントポール大聖堂近くのホテル入り。数組に分かれて夜の街を散策。

11/10(木):曇天と雨。ちんちん電車に乗ってビクトリアマーケットや商店街、公園を探訪。高速道路料金を街中にあるパソコンで支払う。フィリップ島ツアー;夕方5時10分発。バスドライバーの奥さん日本人。案内親切。小雨の島は肌寒い。浜に平行して木造栈橋が延びる。朝餌を獲りに行った小型ペンギンが組をなして薄暮に帰ってくる。遅れたペンギンを帰るまで組み単位に浜で待つ。無数と思えるペンギンが楽しそうににぎやかに、ヨチヨチ浜の巣に入る。栈橋のそばまで来るペンギンもいる。白杖を持つ会長のところに係りの女性が実物大のペンギンのハクセイを持ってきて丁寧に説明。多くのボランティアがこのペンギンコロニーを支えている。

11/11(金):メルボルン08時45分発(9時間5分)香港16時30分発(3時間30分)セントレア21時。三重組はバスをチャーターして家路へ。



羊 羊 羊 . . .



「オーストラリアでの初体験、感動の旅をありがとう」伊藤和子
この度の10月29日~11月11日まで、パース~メルボルン(イン
ディアンパシフィック号列車2日間含む)14日間の旅、私にとって
は、初めての長旅!!行くまでは不安と期待一杯でしたが、終って
みれば、短かったなあ~と...今では淋しく思います。

2年前に行ったオーストラリアは、ケアンズを中心にお決りの観
光地巡りとホテル...そこそこの感動!?

今回参加させて頂いた旅は、レンタカーにて...行き先は概ね決ま
っていましたが、詳細は、その時折決め宿泊先にしても当日モーテ
ル探し、朝、昼の食事も自炊!?材料の買い出し...等々とてもユニークで楽しかったです。

パースに着いて最初の夜9時近くになっても宿泊先が見付からずいよいよ野宿!?初体験!!車はどこに止め
るのかなあ?」なんて考えながら、「どんな所でもいいからホテルを与えて下さい!!」と願っていた私...交渉成
立!OK!!と言う宮本夫人からの連絡で、ホッと。それから、順調に..朝は毎回一室に集まって楽しく朝
食の野菜等を齧りながら行き先等の伝達を済ませ、「さあ~出発!!」広大な土地、森林、海岸線、真っ赤な夕陽、
郊外の公園、見るものすべてが、綺麗で、自然のすばらしさに感動!

びっくりしたのは、どこの公衆トイレも清潔で散らかっていない事。日本では、中々見られない光景だなあ~と
実感しました。

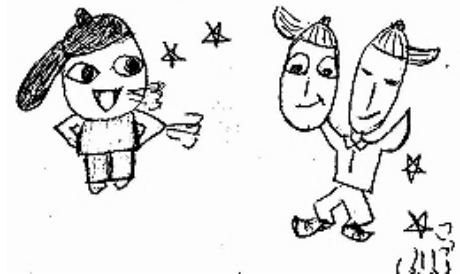
余談ですが...毎回陽一さんと、北出さんのバトル?言葉のキャッチボール楽しかったです。

私が、今まで、行った旅行では、中々体験出来ない事ばかりでドキドキもしましたが、ワクワク感動一杯で、
楽しませて頂きました。そんな中、役員の皆様方は毎日が大変だったと思います。本当に、ご苦労様でした。

目の不自由な私が、楽しく心に残る日々を送る事が出来たのは、参加された皆様方の暖かいサポートのおかげ
だと思います。本当にありがとうございました。そして、こ
の長期の旅行に快く一緒に参加してくれた友人にも感謝!!

「青の中に身を置いて」須藤加代子

宇宙飛行士の「国境線は見えません」という言葉に感動し
た覚えがある。島国日本を出て、大きな島国オーストラリア
を訪問した。百もの違う言語を話す人々が住むというその国
で種々人種の人達を見た。タワーヒルで私達が見ていても平
然とユーカリの葉っぱを食べるコアラには驚いたが、その他



幸せ家族

野生のエミュー、カンガルー、ポッサムも見て興奮したが異なる環境で生きる人間はなお興味深かった。

南端のパースからアデレード、メルボルンへの旅行だったが途中アデレードヒルの日没を見ながら会長宮本先生が、私がアイサポートさせて頂いている婦人におっしゃった。「RP患者に目を休ませなさいとアドバイスされる方がいるが僕は使うことはいいことだと思う。使わなければ細胞は死んでしまう。」専門的なことでわからなかったけれど、五感を使う程に発達し、使わなければ鈍ってしまうのかと自分なりに納得した。思い返すと五感を全開にして一日一日を楽しんだこの旅行だった。

まずフリーマントルで見た空と海のブルー、視界全部が美しいブルーで圧倒された。汚れない澄んだ青の中に身を置いて、言葉を失った。駅まで駆けつけてくれた友人一家は退職後パースに移住されてもう何年もたつ。その話に聞いてはいたが、又ビデオでも見せてもらったが、その美しさは実際に目にして初めて理解できた。暖かい見送りを受けて乗り込んだインディアン・パシフィック号。ナラボー平原40時間の車窓風景は退屈するかも、と思ったが、とんでもなく、日の出・日の入の色の变化、又空が焼けるように見えたその夕日は強烈に印象に残った。車中で世話して下さった青年は姉妹都市・姫路で日本語を覚えられたそうで、夜中のカルグーサー金鉱への道を共に歩いて案内して下さいました。



野生のコアラと遊ぶ

マウントロフティーサミットで先程触れたように日没を見たが、そこにインド人親子がいらした。目が合ってもニコリともされないが20代の息子が両親に敬意の込められた接し方をされるのに感心した。その場所で月の近くに特別大きく輝く星があったが私のアイパートナーは目が不自由になって以来初めて星を見た大喜びされた。その喜びがこちらにも伝わって、改めて感謝した。

アデレードの駅で写真を撮った後、背の高いポリスマンに話かけられた。その日モール街で「何かお困りのことは？」と近付いて下さったグリーンジャンパーを着たボランティアの方と同じように思い「どこも閉ってしまって困っています。どこか夕食のとれる所を御存知ですか」と尋ねたところ駅での写真を咎められた。後で先生からインターネットの時代なので個人情報の侵害に注意するよう教えて頂いた。

ハンドルフでは魅力的なお店が道の両側に並んでいた。手作りの小物を見ていたら、家でいつも聴いているCDがBGMで流れていた。音楽は地球語だ！とうれしくなった。ポートフェアリーまで進んで寄ったタワーヒル。本物のカンガルーを見て思わずビスケットで引き寄せようとしたら、奥さんに「不自然な餌をあげちゃダメ」と注意され、そうだと反省した。



ポートキャンベルで入ったレストランでアーティストと思われる男性に会った。メンバーの似顔絵を描いて下さったのがきっかけで近付いてみると店の歴史的な壁画を描かれた画家だった。皆で記念写真を撮らせて頂いたので、プリントできたらお送りするつもりだ。

グレートオーシャンロードを走るのだがポイントは全て見逃さない。十二使徒と呼ばれる名所で真摯な姿で祈りをささげる韓国人女性を見た。思わず神に語りかけたくなる程美しい風景だった。

アポロベイで一泊することになるが、海辺を歩いて釣り人のバケツを覗いたがリリースする小型ばかりだと嘆かれた。立てた竿を見守る彼の後のマックパインの木に学校帰りの息子が驚かせようと隠れていた様子は映画の1シーンのようだった。仲の良い親子の姿は日本にいる家族を思い起こ

させた。

別の突堤ではユニセフを通して黒人の子をもらったという幸せそうな5人家族に出会った。白い杖が気に入ったその坊やは使い方を聞いてうれしそうに真似して歩いた。下の2才の女の子は麦の穂を手に、これと同じよ、と口にビスケットを入れてくれた。パッケージの絵の小麦と同じだというのだ。子供のあどけなさは世界共通であることを示すその時の写真はとても良く撮れている。

オーシャングローブの海辺で8才の学童が「私のイメージするオーストラリア」というタイトルで砂造形していた。私のお気に入りには小枝をたくさん突き刺したハリモグラ。父母と娘が3匹の犬をブーメランで思いっきり遊ばせているのを見たのもこの場所。何度も何度も、何度も何度も...いい光景だった。

それ迄と打って変わって時間が速く流れているように感じた国際都市メルボルン。ダブルのスーツが決まっているビジネスマンが多かった。ここでも小さな出会いがあった。朝食を買いに入ったコンビニで「日本人ですか?」と親しみを込めて話かけてくれたバングラデシュの青年。やはり「日本人ですか?」と声をかけてくれたルームキーパーの中国人女性。ピクトリア通りへ夕食に出かけた時に「観光ですか」とすしを握り乍らこちらを向いた日本人男性の髪は、なぜか赤色だった。

それにしてもパースのボタニックガーデン他3ヶ所で見えた兵士の像の鎮魂碑、第二次世界大戦で日本と戦った?戦後の世代の私は耳にしたこともなかったけれど、異なる人種の人々が平和に暮らすのを見てきたこの2週間の旅。「見よ、兄弟たちが一致のうちに共に住むのは何と良いことであろう、それは何と快いことであろう」と神が詩編でおっしゃっている通りのことが世界中で見られる日が来るという確信を、この広大で、美しい青に包まれた国に来て深めることができました。

愛する家族にはアボリジニーの知恵を借りてティートゥリーとユーカリのオイルを。



ランドルフでの公園ランチ

「二つの試練」名村和泰

第5回豪NZ親善の旅2005は、私にとって試練の旅でした。一つは2週間という連続の旅に出ることです。国内においても、これだけの日数を外で暮らしたことはありません。しかし、オーストラリアは2回目ですから、日数の長さにはさほど不安を感じたわけではありません。何が不安だったかと申しますと車です。パースからアデレードまでは、昼夜丸2日かけた列車の旅でしたが、それ以外はレンタカーでした。40年以上の運転歴があり、違反歴はあっても事故歴はなく、運転にはまあ自信のある方です。けれど名古屋の街は運転しない、これが私の信条でした。鈴鹿に住んでいて、しよっちゅう名古屋に用事があるのですが、いつも電車でした。

アデレードからメルボルンまで、4日間車で走り続ける本格的な車の旅です。二度と見ることはないであろう海岸沿いの、景勝地を選ったのコースです。「ナムラさん運転する?」「しない、しない」「車の旅にきて一度も運転しないで帰っていいの?」4年前にカウラからキャンベラまで、現地に住む人に、横に乗ってもらい運転したこともある記憶が甦って、誘惑に負けてしまいました。普通走行百kmで、延々飛ばす気分のいい感覚は、日本では味わえないものです。「もうかなり走ったから代わろうか?」「いえいえ、まだまだ運転できます」またたく間に4日が過ぎ、やがてメルボルンが近くなってきました。360万人を越える大都市です。リーダーの車が右折



行列レンタカー(後尾車より写す)

するらしい。右車線へ強引に車線変更します。信号が黄色から赤になりかかっています。リーダーの車はお構いなく右折してしまいました。ここでひるむわけにはいきません。かなりハードな運転でした。おかげで今は、名古屋の街を車で走っています。

もう一つは、40年来吸ってきたタバコを止めたことです。止めたというより、止めざるを得ない環境に無理やり置かれたということです。メンバー12人の内、A氏はタバコを吸うはずだ、仲間は居ると、めぼしを付けていました。だからこの旅を申し込んだのです。私以外に一人も吸わないと、分っていたら申し込まなかったと思います。



宴会1P号

見事裏切られました。申し込んで本決まりになってから、A氏はタバコを止めて今は吸わないことが分ったのです。

パースからアデレードまで、列車インデアンパシフィックの車窓から見るナラーボア平野は、起伏が全くない平地で、写真で見た火星の大地のようでした。日本の風景しか見たことのない私にとって、平地は畏怖でした。この感動も書きたく思いましたが、それにもまして、今もってタバコを吸っていないことを記しておきたいと思いました。

皆様のおかげです。

「レッドカンガルー」宮本忠

南半球の初夏。2005年11月2日爽やかな快晴の午前11時55分、大陸横断列車インデアンパシフィック号はパース東駅をゆっくりと動き出した。妻と私は、豪華車両ゴールドカンガルーに乗る旅仲間10人と別れてレッドカンガルーの車両Sleepers Carriage Nの個室に腰を下ろした。IP号は2005年度三重豪NZ協会恒例の親善交流の旅の花。



1P号

パース東駅ホームで切符のチェックをした明るい車掌さんの案内放送を聴きながらアデレードまで40時間お世話になるわが個室を先ず探検する。私どもの部屋は進行方向右側、個室方式なので通路ではほとんど他の乗客に会わない。大声で話したり大笑いしない限り隣の部屋の音は聞こえない。二人だけのハネムーンルーム。入り口に入った左奥に洗面台とごみ入れ。右がロッカー。窓に沿って二人用応接セット。簡単な操作でセットの上が二段ベットの寝室になる。狭いながらも楽しい我が家で簡素な昼食。車両後ろの食堂を通過してラウンジルームへ。ここは私たちの娯楽室。ナラボー大平原のパノラマ室でもある。ミュージックボックスから軽快な音楽、ゲームをしている若者、おしゃべりと笑い声。ソファに足を縮めて遠慮げに寝そべっている青年。私たちは大理石もどきのテーブルでリラックス。本を読んでいる人、ビデオも見られる。通路やテーブルは直線的配置でなく、曲線で工夫を凝らしている配慮もうれしい。

夕食は6時オープン。込まないうちに5分前に食堂に行ったが「まだできてない、6時になったら来てください」。そこで6時丁度に出かけたら「まだスープができていません」。お客さんはまばら。10分すぎに「もういいだろう」と食堂へ。な、なんと長蛇のお客さん。ようやくヴェジタリアンセットメニューを受け取ったものの「スープはまだです」とキャシヤー兼任の車掌さん。さらにしばらくたってからスープをようやくゲット。7時頃お腹も大きくなりコーヒータイムに入る。車掌さんが来て「スープ注文した人いませんか？」奥のほうで中年女性Noと大声で答える。今度はおねえさんが回ってきて「スープ注文した人ない？」ニコニコしながら私たちの所にやって来て「注文した？」とたずねる。「もういただいたわ」と妻。それでもお姉さんニコッと微笑して「このスープ熱いから注意して」と言いながらパンも置いていった。なるほどスープはチリチリで味も濃い。とてもいただけない。部屋に帰って湯で薄めたらちょうどよくなった。「パンは明日の朝食だ」延々と続く地平線の西方の空を、真っ赤に染めて沈み、かつ昇る太陽を楽しみながらの快適な大陸横断列車の旅でした。



西オーストラリアの花・花・花

～広大な自然 人との出会い～



夕立前に昼食(マウントガンビアにて)



十二使途



Motelでの自炊夕食一人350円

《編集後記》

平成十七年度は、二回の発行予定でしたが、遅れて十八年度の発行となりました。毎年変則的な発行となり、迷惑をおかけしています。毎年の紀行の紹介の編集に携わることより、未だにオーストラリア・ニュージーランドに行ったこともない私も、いっぱしの知識が、掲載写真の選定のために数百枚の素晴らしい写真を見せていただいております。ニュースレターの担当も毎年追われながら早いもので、八月から七月分、四年目となりました。

(梶)

<事務連絡>

会費未納の方は納入をおねがいします。

百五銀行津市役所出張所
 ミエゴウエヌゼットキョウカイ 82920
 新たにEメールでの配信をご希望の方
 & fax059 - 368 - 2112 宮本まで。

発行 三重オーストラリア・ニュージーランド協会
 発行責任者 宮本忠 Tel/Fax 059 (368) 2112
 〒510-0226 鈴鹿市岸岡町 2626-95
 HP : http://www.ztv.ne.jp/yosshi/
 Eメール : ty1005@mecha.ne.jp
 この会報にある文章・写真の無断掲載はご遠慮下さい。